

認定介護福祉士が地域の連携強化に果たす役割

提言

介護福祉士は認定を取得し、
地域にでよう。
そして最期まで暮らし続けられる地域を、
地域と一緒につくろう。

登壇者

【進行役】	諏訪 徹氏	日本大学文理学部社会福祉学科教授
	平川 博之氏	(一社) 認定介護福祉士認証・認定機構理事
	山田 尋志氏	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ代表
	家崎 かおり氏	認定介護福祉士／(社福) 坂城町社会福祉協議会
	北山 加代子氏	認定介護福祉士／(特非) ほのぼのセンターひなたぼっこ代表
	遠藤 洋一氏	京都市介護ケア推進課資格・認定給付担当課長

議事要旨 諏訪 徹氏

分科会29は、地域づくりのプレーヤーとしてあまり登場することのなかった介護福祉士をテーマにしたユニークな場でした。2015年に開始された介護福祉士のための上級資格＝認定介護福祉士が、地域づくりにどのような役割を果たし得るのか、その可能性と期待をめぐる熱いトークが繰り広げられました。

北山さんは、地域での普通のくらしを支えたいという思いから長年小規模デイを設立・経営してきましたが、認定介護福祉士となって「地域とのつながりの重要性和地域資源の活用をさらに強く認識するようになった」

「地域生活を支えるなかでの専門性の発揮の仕方や役割を職員に伝える力を磨くことができた」といいます。今後は誰もが立ち寄り、惣菜等も提供する喫茶店兼居酒屋、誰もが入居できるこじゃれたマンションなど、地域生活の継続を支える資源づくりにも挑戦したいと夢を語ってくれました。

同じく認定介護福祉士の家崎さんは、現在は社会福祉協議会の福祉活動専門員として、社会福祉士たちとチームで生活支援体制整備事業や地域づくりの活動に取り組んでいます。「介護福祉士（訪問介護員）として個の支援をずっとやってきたからこそできる地域づくりがある」「地域づくりは実績とかなんとか、上から目線では進まない。人それぞれの普通があるように、それぞれの地域の普通、時間軸、歴史に寄り添いながら進めることが大切」との言葉に強い説得力がありました。

他のパネリストからは、認定介護福祉士に期待する立

場からご発言をいただきました。

老健施設経営者・協会を代表する立場の平川さんからは、「介護職がないと他職種の力を発揮できない」「さまざまな専門職がいる老健施設で腕を磨き、他職種とため口をきけるようになってほしい」「地域に出て、地域を駆け回ってほしい」「地域ケア提供者のど真ん中で存在感ある地位になってほしい」と介護福祉士への熱いメッセージ。期待が高まります。

山田さんは、予防からターミナルケアまで利用者の変化に寄り添いながら自宅を中心とした生活圏域で支えるサービスのありようを追求するなかで、地域密着型複合拠点（小規模多機能＋地域サロン＋小規模特養）づくりに取り組んできました。その経験から「複合型拠点と高度な介護人材養成は一体」であり、チームマネジメントに加えて「地域マネジメントに参画できる介護専門職が必要」と認定介護福祉士への期待をなげかけました。

遠藤さんは山田さんのパートナーとして行政マンとして、高度な介護人材の育成プランを具体化していく立場です。「〇〇さんみたいな介護福祉士を61人（地域包括支援センター数）つくれ」という号令のもと、研修プランの検討が進められています。

フロアからも「自分も挑戦してみたい」「養成研修を具体化したい」という声が聞かれ、最終的には「介護福祉士は認定を取得し、地域にでよう。そして最期まで暮らし続けられる地域を、地域と一緒につくろう」と提言しました。

アンケートの結果 参加者概数：9名 回答者数：9名

